

神奈川大学 人文学研究所

The Institute for Humanities Research

Kanagawa University



◆人文学研究所の事業

人文学研究所は1963年、人文学研究領域相互の活発な研究活動を支援することを目的に神奈川大学の附属研究所として設立されました。

人文学研究所の主な活動は

- ① 人文学に関する研究及び調査
- ② 研究資料の収集及び整理
- ③ シンポジウムや講演会開催
- ④ 研究及び調査成果の発表のための刊行物の発行

などを中心としています。具体的には、人文学系の各種テーマによる共同研究グループの共同研究を大きな柱に様々なシンポジウム・講演会を開催し、また、『神奈川大学人文学研究叢書』を発行するなど多彩な活動を行っています。

◆人文学研究所の研究活動

人文学研究所の活動は、共同研究グループによる調査・研究活動と、国外研究機関との学術交流やシンポジウムの開催の二つに分けることができます。本研究所設立以来、活動を展開した共同研究グループは総数30グループ以上を数えます。

【人文学研究所共同研究グループ一覧】

(2025.7)

No.	名 称	研究テーマ
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題
2	言語変異研究	日中異文化の語用論研究
3	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムとの関わりについて、なかでもジェンダーという視点に注目しながら、地域や時代を横断し、多様なテキストをもとに考察する。
4	自然観の東西比較	風土を基礎にした神と自然についての歴史的、思想史的な比較研究
5	日中韓対照言語研究	ヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティの対照研究
6	知覚認知システムの普遍性と多様性	人の知覚・認知の仕組みについて、研究することを目指しており、特に、知覚の様相や認知的様相に共通な普遍性とそれらの様相の相互効果によって展開した多様性を現象・行動観察や計算論的解析などを通して明らかにする。
7	学びの見える化	「実学教育」の実質化による教育的価値創造の原理の構築
8	芸術（アート）と物語の交雑／発信力	広義の芸術（アート）について、物語との交雑を視野に入れて、調査・研究を行う。
9	観光と美術	美術とは、人間が社会を築き、それぞれの歴史、宗教、生活、自然環境から生み出された表現である。最近では地域の歴史遺産や伝統工芸は重要な観光資源としてにわかに注目されてきているが、その活動は一過性のものが多い。本研究グループは、美術（特にファインアート）や工芸デザインの分野に特化し、観光における功罪を再認識し、その正負の効果を体系化する。美術・工芸デザインの真の美的価値を評価できるアート・リテラシーを向上させることで、観光での活用を持続可能なものにすることが目的である。
10	言語景観と多文化共生	多言語表示と情報発信を再考する
11	国際日本研究	日本文化（社会や歴史、文学、美術、宗教、メディア等を含む）を国際的な視野で、学際的かつ総合的に研究すること
12	スペイン語圏トランスナショナル・ヒストリー	国民国家としてのスペインの来し方行く末を再考する。 ①ミクロの視点で、スペイン国内の歴史的・文化的多様性の実態を再検討する。 ②マクロの視点で、世界に広がるスペイン語文化圏の比較研究を行う。
13	ホスピタリティの人文的検討	哲学、歴史、社会学にみるホスピタリティを研究し「人間とは何か」と言った根本的な問いを探索します
14	英語圏児童文学・文化研究	イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどの英語圏社会で特に子どもに向けて書かれる児童文学と、関連して子どもに向けて発信される児童文化を研究対象とする。

15	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパにおける歴史と文化を研究する。当面、以下の2本の柱を立て、研究を進める。 (1) イギリス近世・近代史の研究 (2) ケルト学の研究
16	越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う。
17	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。
18	臨床心理学研究グループ	臨床心理学に関する包括的研究
19	各国近代文学の研究	1. 各国の近代文学の対象・方法・成果を比較・検討する 2. 各国の近代文学（研究）の社会的・歴史的配置を研究する 3. 「新しい文学研究」の方法論・実践を模索する

◆人文学研究所・2025年度（前期）・講演会

敬省略

No.	日時	講演者	テーマ	所属（職業）
1	4月17日（木）	内田慶市	中国語——ことばの背景にあるものとは？	関西大学東西学術研究所客員研究員・ 関西大学名誉教授
2	5月21日（水）	ローズ・ミーガン・キャサリン	Hyperfeminine Harajuku: Exploring Queer KAWAII Practices in a Tokyo Subcultural District	ニューサウスウェールズ大学バイタリ ティーズ研究室ポスドク、東京大学大 学院情報学環 客員研究員
3	6月19日（木）	仲田恭子	地域に根ざした演劇活動——伊久美での実践から	アートひかり（演劇ユニット）
4	6月23日（月）	陳祖恩	再説！上海史研究	中国・東華大学 元教授
5	7月23日（水）	ジュリア・ブロック	Beauvoir in Japan: Japanese Women and The Second Sex	エモリー大学 アーツ&サイエンス学部 ロシア・東アジア言語文化学科
6	8月5日（火）	マレック・パリシ	The Future of Graphic Fiction Studies: Constructions of Genre in Polish Comics, 1960–1990	ワルシャワ大学 准教授
7	8月5日（火）	トレシー・ラシター	The Future of Graphic Fiction Studies: Intermediality, Transmediality, and the Future of Graphic Narratives	ニューメキシコ大学ギャラップ校 准教授

※共同研究グループによる研究会等は人文学研究所 HP をご参照下さい。
人文学研究所 HP <http://human.kanagawa-u.ac.jp/kenkyu/index.html>

◆学術交流とシンポジウムの開催 2016年～2024年

- ◇シンポジウム「中国古典小説研究30年の回顧と展望」(Studies on Chinese Classic Novels Retrospect for 30 Years and Prospect for the Future) 2016年、主催
- ◇「ホスピタリティと人文学の役割——足元からの多文化共生——」
【第一部】公開シンポジウム 【第二部】公開講演会 2016年、主催
- ◇シンポジウム「クィアな変容・変貌・変化（トランスフィギュレーション）：アジアにおけるボーイズラブ（BL）メディア」(Queer Transfigurations: International Symposium on Boys Love Media in Asia) 2017年、共催
- ◇シンポジウム「デザインミュージアムのヴィジョン」2022年、主催
- ◇シンポジウム「Literature Goes to School」2022年、主催
- ◇シンポジウム ワークショップ「音楽分野の日中関係史を考える」2023年、主催
- ◇シンポジウム「関東大震災研究についての報告&討論会——非文字資料と歴史」2023年、共催
- ◇シンポジウム「アートが誘引する破壊、そしてアートの名の下の破壊」2024年、主催

◆人文学研究所の出版物

人文学研究所は研究所の諸活動によって得られた成果を社会に還元するために『人文学研究所報』を年に2回発行しています（2025年度 第74・75号）。国外研究機関との学術交流の成果としては、浙江大学日本文化研究所との共編で『中日文化論集』（1991～1999、中国語）を発行してきました。さらに、共同研究グループの研究成果をまとめた学術書シリーズ『神奈川大学人文学研究叢書』を刊行しています。